

## 1. 評価結果概要表

作成日 平成21年5月20日

## 【評価実施概要】

事業所番号	鹿児島県指定 第4673900108号		
法人名	医療法人 トウスイ会		
事業所名	グループホーム みのり園		
所在地	鹿児島県 薩摩郡 さつま町 宮之城屋地 1358-2 (電 話) 0996-52-0122		
評価機関名	NPO法人 自立支援センターかごしま 福祉サービス評価機構		
所在地	鹿児島市星ヶ峯4-2-6		
訪問調査日	平成21年5月13日	評価確定日	平成21年6月6日

【情報提供票より】 (平成21年3月1日事業所記入)

## (1) 組織概要

開設年月日	平成 15 年 8 月 14 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	15 人	常勤 15人	非常勤 0人 常勤換算 15人

## (2) 建物概要

建物構造	木造モルタル平屋 造り
	1階建ての ~ 1階部分

## (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	31,500 円	その他の経費(月額)	0 円	
敷 金	有 ( 円 )	○無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 ( 円 )	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	250 円	昼食	350 円
	夕食	350 円	おやつ	50 円
	または1日当たり 1000 円			

## (4) 利用者の概要 ( 3月 1日現在 )

利用者人数	18 名	男性	1 名	女性	17 名
要介護1	7 名	要介護2	7 名		
要介護3	2 名	要介護4	2 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 86.7 歳	最低	73 歳	最高	95 歳

## (5) 協力医療機関

協力医療機関名	稲津病院・宮之城病院・薩摩郡医師会病院・杉田歯科
---------	--------------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

町の中心部に、母体病院と隣接してホームが設置されており、入居者は診療や機能訓練など受けられるので、安心して暮らしている。施設長や職員は基本理念を忠実に実践し、利用者を尊重したケアに取り組んでいる。入居者も一緒に行なう掃除や食事前の体操など、もてる力を活かすケアが、入居者の笑顔に現れており、自信や生きがいに繋がっている。「気軽におじゃったもんせ」の気持ちで、地域の高齢者のいきいきサロンをホームで開催したり、子供との交流などの取り組みがなされており、地域住民が立ち寄り易い雰囲気のあるホームである。

## 【重点項目への取組状況】

重点項目 ①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	職員を育てる取り組みについては、研修センターの計画に添って交替で受講を進め、研修報告書を作成して、内容を共有し、改善に取り組んでいる。
重点項目 ②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	全職員が評価について、ねらいや意義を理解し、全員で取り組み、ユニット毎にそれぞれ評価を行って、改善計画シートで具体的な改善項目を掲げ、評価をサービス向上に有効に活用している。
重点項目 ③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	料金の改定について、運営推進会議に提案し、家族の理解が得られ、運営に反映できている。入居者の役割などについて話し合わせ、理解が得られるとともに、入居者にとってよいケアプランやサービスの提供につながっている。
重点項目 ④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	花見や誕生会など、ホームの行事に家族の参加も呼びかけ、家族との意思疎通が図られている。運営推進会議においても意見や苦情を聞く機会を設けており、意見は職員会議等で話し合い、運営に反映させている。
重点項目 ④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地域高齢者のいきいきサロンをホームで開催したり、自治会行事の夏祭りなどに参加している。地域住民をお茶に誘ったり、子供会やボランティアとの交流など積極的に行っている。

## 2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	基本理念を5つ掲げ、利用者のありのままの生活を支え、家族や地域住民にいつでも気軽に来てもらえるホームを目指した、地域密着型サービスとしての理念である。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	パンフレットに明記し、リビングの見やすい所にも掲示している。管理者・職員は理念に基づいた介護計画を作成し、常に理念を念頭に毎日のケアに取り組んでいる。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域高齢者のいきいきサロンをホームで開催したり、自治会行事の夏祭りに参加している。近隣住民をお茶に誘ったり、子供会やボランティアとの交流など積極的に行っている。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の外部評価後、改善計画シートを作成し、前向きに改善に取り組んでいる。自己評価も全職員で取り組み、ユニットそれぞれ評価を行い、具体的な改善項目を掲げ、評価を有効に活用している。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的開催し、そこで話し合ったことを利用者家族にも報告している。自治会長や民生委員などの協力により地域との交流がより充実している。料金改定など家族の理解を得られ運営に反映できている。		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	管理者は町の地域ケア会議の委員をしており、市担当者や地域包括支援センターと連携が図られ、サービスの質向上に共に取り組んでいる。		
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	定期的な園便りの発行や面会時・利用料の支払時に家族と面談し、出納帳の確認や利用者の暮らし振りなど個別に報告している。健康状態は受診時に電話で報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	花見や誕生会など、ホームの行事に家族の参加を呼びかけ、家族との関係が築かれている。運営推進会議等においても意見を言う機会を設け、サービスの質向上に反映させている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	運営者や管理者は、馴染みの職員による支援の重要性を認識し異動はほとんどない。採用後も利用者に配慮した勤務体制など工夫している。		
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修センターの研修を計画的に受講し、参加者は研修報告を毎月の職員会議で発表し、全員で研修の内容を共有している。資格取得も勧め、職員を育てる取り組みをしている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修会や他のホームの見学など実施し、情報交換や相談など相互協力しており、サービスの質の向上に取り組んでいる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居希望者には見学や体験入所を勧め、他の入居者とお茶を飲んだり、家族に協力をもらいながら、徐々に雰囲気馴染めるよう工夫している。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者から灰汁まき作りや金柑漬け・そば打ち・梅干作りなど教わりながら作っている。お互いに協働しながら、支えあう関係を築いている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎年、絵馬に利用者の思いや意向を書き、見やすいところに掲示している。月1回は利用者と語ろう会の日を設定し、利用者の思いや意向の把握に努めている。困難な方も、日々のかかわりや家族からの聞き取りなど、思いを大切にしている。		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	家族の帰省中等タイミングを考え、多くの関係者と話し合い、毎月のケアプラン会議で本人の全体像を把握しながら、介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎月のケア会議で話し合い、見直しの必要な場合は、臨機応変にケア計画の見直しをしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	病院受診や通院介助・リハビリ支援・自宅訪問・墓参りなどの特別な外出を希望に応じて支援している。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族の希望するかかりつけ医での受診を支援し、眼科や歯科など病状に応じた受診も支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	病院に隣接しており、主治医と本人・家族が話し合い、方針を共有している。ホームでの看取りはしない方針であるが、ホームでできる最大限の支援をしている。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	研修や勉強会などでプライバシーについての意識向上に取り組んでおり、言葉かけや対応などプライバシーの確保を徹底している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者の体調に配慮しながら、起床や食事時間などそれぞれの入居者の気持ちやペースを尊重した、個別支援を実践している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜の下ごしらえや配膳・片付けなど、できる事に参加している。季節の野菜を使って、おやつを作るなど入居者と職員と一緒に食事を楽しむ工夫をしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日午後から入居者の希望や体調に配慮して、入浴を支援している。近くの公園の足湯に出かけることもある。温泉を引いてあり、夏場はホームで温泉を楽しんでいる。		
<b>(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	得意分野を把握し、掃除や洗濯物干し・洗濯物たたみ・草取りなど、力を発揮してもらうよう取り組んでいる。踊りや民謡・移動販売車での買い物など、楽しんで生活している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気や体調に合わせ、散歩や買い物・ドライブなどしている。バスを利用し、花見や遠足など外出の機会を支援している。		
<b>(4)安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は玄関の鍵をかけずに自由な暮らしを支援しており、地域住民も立ち寄りやすいように開放している。外出傾向の入居者の様子を把握し、身守りや連携を図っている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	定期的に、消防署と協力し避難訓練や消火訓練を実施している。運営推進会議で話し合い、地域との協力関係も築いている。		災害に備えた備品等の準備をしておく事が望まれる。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分量について記録し、栄養摂取や水分確保の支援に努めている。献立の栄養バランスについて、病院の栄養士にアドバイスをもらっている。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
<b>(1) 居心地のよい環境づくり</b>					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関や窓から、心地よい風が通り抜け、掃除も行き届いている。空気清浄機を設置し、清潔な環境の中、季節の花が生けられ、落ち着いて、居心地良く過ごせる共用空間である。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れたベッドや机・椅子など持ち込み、家族の写真やプレゼントの人形など飾り、入居者が安心して過ごせるよう工夫している。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。